様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２９ 日現在

機関番号：３２６９９
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５２８４０２２

研究課題名（和文）西欧ルネサンスの世界性と日本におけるキリシタンの世紀

研究課題名（英文）Renaissance Culture and Japan's Christian Century (1549-1650)

研究代表者
根占　献一（Nejime, Kenichi）

学習院女子大学・国際文化交流学部・教授

研究者番号：５０２０８２８７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　12,500,000円

研究成果の概要（和文）：本計画は、イエズス会士らの西洋人が日本および東アジアにもたらした「キリシタンの世紀」（1549-1650）における西欧ルネサンスの知的文化の背景、および日本における受容や変容を分野横断的に研究するものである。その主要な活動として、英語による3回の国際シンポジウムを開催した。もうひとつの重要な活動として、ニューヨーク、ベルリン、ボストンでおこなわれた米国ルネサンス学会にパネル企画を提案し、成功裏に運営した。論集『知のミクロコスモス』（中央公論新社、2014年）は主要な出版成果である。同時に、小研究会やインターネットを活用した講演など社会的なインパクトのある啓蒙活動をおこなった。

研究成果の概要（英文）：This project addressed the intellectual culture of the European Renaissance, which was introduced in Japan and East Asia during “Japan’s Christian Century” (1549-1650), and its background, reception and transformation. As its main outcome, three international conference in English were held in 2013, 2014 and 2015. Another important activity was the organization of special panels in the framework of the annual meetings of the Renaissance Society of America held in New York (2014), Berlin (2015) and Boston (2016). The volume of collected articles "The Microcosm of Knowledge" was published from Chuo-koron Publisher as the major publication in 2014, followed by a series of research articles. The project also organized research workshops and internet lectures as social impact activity.

研究分野：西欧思想史

キーワード：キリシタン　ルネサンス　東西文化交流　人文主義　アリストテレス主義　イエズス会　日本　ヨーロッパ

１．研究開始当初の背景

欧米のルネサンス学者たちによる多くの基本書が邦訳・紹介され、1990 年代以降わが国においても西欧ルネサンス・初期近代の思想と文化の研究が広く認知されるようになり、一定の成果を生み出している。こうした一連の研究が示したことは、中世から続いていたアリストテレス主義を柱とする学問伝統の大きな変容と、近代文明を基礎づけることとなる知的世界を提供した新しい学術的な枠組みの勃興である。しかし、特に 16 世紀後半から 17 世紀初頭にかけての初期近代への移行期については、これらの優れた研究でも取り扱いが手薄なものとなっている。まさにこの時期に、日本はイエズス会士を初めとする来訪者により西欧の知的文化に直接的に遭遇するのであるが、その影響関係の内容理解となると困難を極め、研究文献も非常に少ないのが現状である（海老澤有道『南蛮学統の研究 : 近代日本文化の系譜』創文社、1978 年 ; 根占献一『東西ルネサンスの邂逅』東信堂、1998 年 ; 川村信三『戦国宗教社会・思想史』知泉書館、2011 年）。

こうした状況の下、本計画の参加者たちは各専門分野での地歩を築くことに集中してきた。代表者は、1988 年に設立されたルネサンス研究会を軸に 1980 年代末から 2000 年代初頭にかけ、ルネサンス人文主義の本邦における研究を牽引する一翼を担ってきたし、分担者たちは学術論集『ミクロコスモス』(2010 年）に代表されるルネサンス・初期近代の知的文化を専門とする研究グループをとおして学究に邁進してきた。2012 年 7 月に東京の立教大学で行われた大型シンポジウムは画期的な契機であり、本計画のメンバーが一堂に会して集中的に意見交換と議論をすることができた。そして、ルネサンス・初期近代においては科学・医学、哲学、人間学、宗教・神学といった学知が複雑に交じり合い、密接に影響しあっていることを再認識し、諸分野の専門家のコラボレーションの必要性を痛切に感じられた。

２．研究の目的

本計画において考察対象とされるのは、とりわけ 16 世紀後半から 17 世紀前半における大きな知的変動期にある西欧で形成された「自然」 natura と「人間」 homo についての新たな認識であり、同時期に日本の知的世界に与えた哲学、神学、文化的な「影響」（受容や拒絶）である。自然の概念は、宇宙の成り立ちから創造神による被造物を包含するものであり、これらの認識なしには、おもにイエズス会を通して日本に伝えられた世界像を理解することは困難である。人間については、身体的な成り立ちから、霊魂の概念、人間だけに与えられたとされる知的活動にまで至る包括的な理解を必要とする。本計画では、西欧ルネサンス・初期近代の専門家であるメンバーの研究が与える知見をもとに、日本における「キリシタンの世紀」（1549 年 -1650 年頃）の専門家であるメンバーが日本に対する初期近代西欧の知的文化の影響をテクスト・ベースの実証的な方法で具体的に探るものである。近年の欧米でも当時の宇宙論や生命論の理解に関心が集まってお 15 世紀から 17 世紀末までのルネサンス・初期近代の西欧では、「科学革命」と呼ばれるほど知的文化の大きな変動期を迎え、伝統的な諸学問のありかたが変容し、近代文明の基礎を形成した。わが国が西欧の知識や科学文化に最初に遭遇したのも、この時代である。本計画は、変革期にあった西欧の知的文化のあり方と、その日本への影響を分析する。具体的には、近代西洋文明の基礎になった自然観と人間観について、1) 中世的伝統からの変容、2) 新しい認識の形成、3) 日本へのインパクトを探求する。既存の諸学問の壁を越え、多方面にわたる知的領域を分野横断的に取り扱うインテレクチュアル・ヒストリーの手法

を採用し、本邦におけるその振興をも目指す。本計画は同時に、国際的な研究者を養成するための戦略的なプログラムでもある。

３．研究の方法

本計画の学術的特色・独創性と意義は、以下の諸点に集約することができるだろう。

（1）東洋と西洋の知的交流の再考

西洋や近代文明に対する知見は、江戸時代の鎖国期、明治維新後の国際舞台への進出、戦後の復興と成長という大きな時代区分を通して日本人の行動と文化に大きな影響を与えてきた。日本古来の文化と乖離するかにも見える極度な科学文明への信頼は、近年の度重なる事故や災害により大きく揺らいでいるかのようにも見える。しかし、そもそも科学文化に象徴される西欧の近代文明の基礎が形成されたのはルネサンス・初期近代の知的変動期であり、ほぼ同時期にイエズス会士の到来などにより日本も「キリシタンの世紀」と呼ばれる時代を経験することで、その勃興しつつあった西欧の新しい知的文化に直接的に接触していたのである。日本人の近代文明に対する態度の幾ばくかは、この最初の直接的な遭遇によって規定されているのではないだろうか？この観点から東西の知的交流を再検討することが、緊急の課題となっている。この問題に取り組むためには、西洋の知的世界についての専門家と日本におけるキリシタンの世紀の専門家による、これまでに世界に類を見ないコラボレーションが欠かせない。それを可能にするのが本計画である。

（2）インテレクチュアル・ヒストリーの手法の導入と振興

哲学史では、多くの研究家たちが特定のテクストの解釈に重点をおき、それぞれのテクストが成立する背景にあった「知のコスモス」の把握に必ずしも十分な関心がはらわれてこなかった。ある哲学者の思想を理解するためには、テクストを読みこむだけではなく、その歴史的な文脈（コンテクスト）を把握することが必須である。一方、歴史学では国家の統治機構や経済活動の研究が主流であったが、近年では文化史的な側面も注目されてきた。歴史学と哲学のあいだに存在するのがインテレクチュアル・ヒストリーであり、歴史学者の時間軸に対する感性と哲学者のテクストのなかに入りこむ浸透力のふたつを同時に必要とする学問手法である。近代的な職業的専門家による学問の細分化が進む時代以前の知的世界は、多様な要素が複雑に絡み合っている領域であり、そこではおのずから分野横断的な視点が求められる。哲学、科学、医学、宗教、文学、芸術といった各分野の枠内で論じられていた多様な主題が、ここでは追求されなければならず、それらの主題はたがいに交錯しあい、密接に関連していたことが理解されるであろう。ルネサンス・初期近代の知的世界の研究にとってインテレクチュアル・ヒストリーの手法はうってつけであるといえ、その本邦における導入と振興を本計画は目的ともしている。

（3）国際的な研究者を養成する戦略的なプログラム

本計画に参加する研究者は、各専門分野において既に若手・中堅としての地歩を固めており、今後目指すものは学際的な研究者間のネットワークの構築、海外への研究成果の発信、そして国際的な学術会議を企画・運営する経験とノウハウを体得・蓄積することにある。特に後者の二点は長年本邦において望まれておりながら、その達成は満足するものといえなかったのではないだろうか？したがって、これらの点を組織的かつ体系的な習得・練成のためのプログラムによって重点的に強化することが必要であり、本計画はその一翼を担うものである。計画の終了する三年後には、参加者が研究成果を国際会議や出版物を通して自由に英語で世界に発信することができるようになることが具体的な目標

となる。

４．研究成果

（1）国際シンポジウム

2013 年から 2015 年の 3 年間に年一回の国際シンポジウムを東京で開催した。発表と質疑ともにすべて英語でおこなった。

第一回目の国際シンポジウムは、2013 年 7 月 20 日（終日）に学習院女子大学で開催した。『ルネサンス文化とキリシタンの世紀』 Renaissance Culture and Japan's Christian Century と題し、海外から共同研究者を 3 名ほど招聘し、総勢 9 名による研究報告がおこなわれた。

第二回の国際シンポジウムは、2014 年 7 月 19 日（半日）・20 日（終日）に学習院女子大学で開催した。『アリストテレス主義伝統とキリシタンの世紀』 Aristotelian Traditions and Japan's Christian Century と題し、海外から 4 名の共同研究者を招聘し、総勢 11 名による研究報告がおこなわれた。

第三回目の国際シンポジウムは、2015 年 7 月 18 日（終日）・19 日（終日）に学習院女子大学で開催した。『ルネサンス人文主義とキリシタンの世紀』 Renaissance Humanism and Japan's Christian Century と題し、海外から 7 名の共同研究者を招聘し、総勢 16 名による研究報告がおこなわれた。

（2）国際学会でのパネル企画運営

米国ルネサンス学会に 3 年間にわたり複数のパネル企画を提案し、採択され、成功裏に運営した。

2014 年 3 月にニューヨークで開催された年大会では、2 つのパネル企画「日本におけるキリシタンの世紀」Japan's Christian Century と「ルネサンスの医学、占星術、夢解釈」 Medicine, Astrology and Dream Interpretation を開催した。

2015 年 3 月にベルリンで開催された年大会では、2 つのパネル「日本におけるキリシタンの世紀とイエズス会士」 Japan's Christian Century and the Jesuits と「変容、消化、想像力」 Transmutation, Digestion and Imagination を企画・運営した。

2016 年 3 月にボストンで開催された年大会では、2 つのパネル「イエズス会布教と日本におけるキリシタンの世紀」Jesuit Mission and Japan's Christian Century と「パラケルススをめぐる錬金術と偽書」 Alchemy and Forgery around Paracelsus を企画・運営した。

（3）研究会と講演会

夏と冬に日本語による小規模の研究会を開催し、人材の発掘と育成につとめた。

2013年12月23日に学習院女子大学で最初の研究会『ルネサンスの知のコスモス：都市、人間、自然』を開催し、5本の研究発表をおこなった。

2014年8月23日に学習院女子大学で第二回の小規模研究会『ボッティチェリからスピノザまで』を開催し、5本の研究発表がおこなわれた。

2014年12月22日に学習院女子大学で第三回の小規模研究会『グローバル・ヒストリーとインテレクチュアル・ヒストリー』を開催し、3本の研究発表がおこなわれた。

2015年8月11日に学習院女子大学で第四回の小規模研究会『アリストテレスから不干斎ハビアンまで』を開催し、6本の研究発表がおこなわれた。

2016年1月15日に立教大学で第五回の小規模研究会『インテレクチュアル・ヒストリー』を開催し、4本の研究発表がおこなわれた。

（4）社会・国民に発信

インターネットの YouTube に専用チャンネル "Marsilio Ficino" を開設し、対談や講演など95本の動画を公開した。

2013年8月3日に池袋リブロ書店池袋リブロ書店で、『天才カルダーノの肖像：ルネサンスの自叙伝、占星術、夢解釈』（勁草書房）の出版記念イベントを開催した。

2013年12月21日に新宿紀伊国屋本店で、『パラケルススと魔術的ルネサンス』（勁草書房）の出版記念イベントを開催した。

2014年7月26日に立教大学で、『知のミクロコスモス』（中央公論新社）の出版記念イベントを開催した。

2015年8月23日に下北沢B&B書店で、『テクストの擁護者たち』（勁草書房）の出版記念イベントを開催した。

2016年2月7日に渋谷HMV書店で、『ボッティチェリ《プリマヴェラ》の謎』（勁草書房）の出版記念イベントを開催した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　6　件）

Orii, Yoshimi, “The Dispersion of Jesuit Books Printed in Japan: Trends in Bibliographical Research and in Intellectual History,” *Journal of Jesuit Studies* 2 (2015), 190-208.

桑木野幸司「ロッセッリ『人工記憶の宝庫』における視覚芸術からの影響について」『西洋美術研究』第17巻（2013年）、91-110頁。

Koji Kuwakino, “The *Inscriptiones vel tituli theatri amplissimi...* (1565) by Samuel von Quiccheberg,” *Journal of the History of Collections* 10 (2013), 1013-1025.

澤井直「ニコラウス・ステノによる筋の幾何学的記述：17世紀における筋運動の探究」『日本医史学雑誌』第60巻（2014年）、21–35頁。

Nejime, Kenichi, “The Immortality of Soul and Japan: The Worldwide Problem of the Italian Renaissance,” *Bulletin of Gakushuin Women’s College* 17 (2015), 99-108.

Nejime, Kenichi, “Alessandro Valignano (1539- 1606) between Padua and Japan,” *Bulletin of Gakushuin Women’s College* 16 (2014), 43-52.

〔図書〕（計　15　件）

ポンセ（ヒライ、豊岡、根占、原）『ボッティチェリ《プリマヴェラ》の謎』（勁草書房、2016年）。

折井善果「キリシタン版の研究からわかること」『出版文化史の東西』（慶應義塾大学出版会、2015年）、95-126頁。

折井善果「アニマ」（霊魂）論の日本到着」『知のミクロコスモス』（中央公論新社、2014年）、332-356頁。

折井善果「対抗宗教改革と潜伏キリシタンをキリシタン版でつなぐ」『キリシタンと出版』（八木書店、2013年）、169-191頁。

ペティグリー（桑木野幸司訳）『印刷という革命』（白水社、2015年）。

桑木野幸司「記憶術の叡智の家」『知のミクロコスモス』（中央公論新社、2014年）、42-68頁。

桑木野幸司「コスマ・ロッセッリ『人工記憶の宝庫』（一五七九年）における天国と地獄の表象」『「かたち」再考：開かれた語りのために』（平凡社、2014年）、301-315頁。

桑木野幸司、共著（3名2番目）『ブラマンテ』（NTT出版、2014年）。

桑木野幸司『叡智の建築家』（中央公論美術出版、2013年）。

根占献一「ヨーロッパ史から見たキリシタン史」清水光明編『「近世化」論と日本』（勉誠出版、2015年）、164-171頁。

ハービソン（根占献一、監訳）『キリスト教的学識者』（知泉書館、2015年）。

根占献一「ルネサンス文化と改革期のローマ」甚野尚志・踊共二編『中近世ヨーロッパの宗教と政治』（ミネルヴァ書房、2014年）、132-157頁。

根占献一「ルネサンス文化と改革期のローマ」甚野尚志・踊共二編『中近世ヨーロッパの宗教と政治』（ミネルヴァ書房、2014年）、132-157頁。

平岡隆二「イエズス会とキリシタンにおけ

る天国の場所」『知のミクロコスモス』、362-386頁。

根占献一『イタリア・ルネサンスの霊魂論』新装版（三元社、2013年）。

平岡隆二『南蛮系宇宙論の原典的研究』（花書院、2013年）。

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
HP: http://www.renaissancejapan.org/

YouTube チャンネル: “Marsilio Ficino”
https://www.youtube.com/channel/UCOBHlyWsmVVNmB2i5U2OiYg

Japanese Association for Renaissance Studies (JARS):
https://www.facebook.com/renaissancejapan/

６．研究組織
(1)研究代表者
根占健一（NEJIME　KENICHI）
学習院女子大学・国際文化交流学部・教授
研究者番号：50208287

(2)研究分担者
折井善果（ORII YOSHIMI）
慶応大学・法学部・准教授
研究者番号：　80453869
桑木野幸司（KUWAKINO KOJI）
大阪大学・文学研究科・准教授
研究者番号：　30609441
澤井直（SAWAI　TADASHI）
順天堂大学・医学部・助教
研究者番号：40407268
東慎一郎（HIGASHI　SHINICHIRO）
東海大学・文学部・准教授
研究者番号：　10366065
平岡隆二（HIRAOKA　RYUJI）
熊本県立大学・文学部・准教授
研究者番号：10637622